

米国金融政策（2024年7月FOMC）

政策金利を8会合連続で据え置き

2024年8月1日

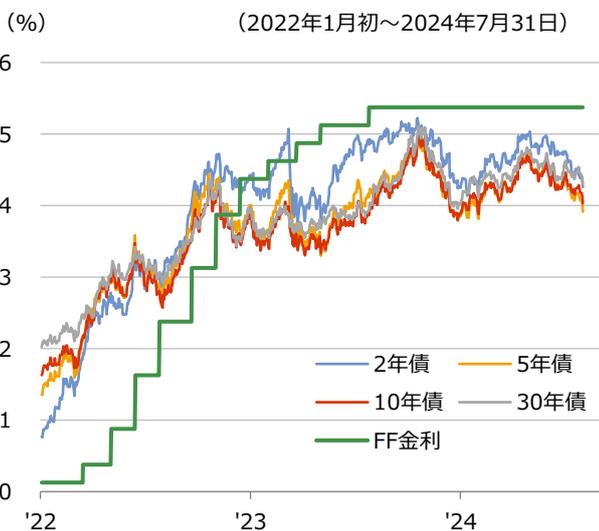
FOMCは9月利下げ開始で一致できず、利下げ開始時期はデータ次第

FRB（米国連邦準備制度理事会）は7月30日～31日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは8会合連続です。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額250億米ドル、MBS（住宅ローン担保証券）で月額350億米ドルとする方針を維持しました。

声明文は「2%インフレ目標に向けた幾分の更なる進展」と示した一方、「委員会はデュアル・マンドートの両面に対するリスクを注視」と新たに指摘し、雇用環境に対する懸念を今回表明しました。もっとも、声明文はインフレ抑制に向けた「確信が強まるまで目標レンジの引き下げは適切ではない」との見解を踏襲しました。パウエルFRB議長は「早ければ9月に利下げは検討されうる」と記者会見で利下げへの意欲を示したものの、FOMC内部で利下げ開始時期を巡って意見に相違があることが窺えます。

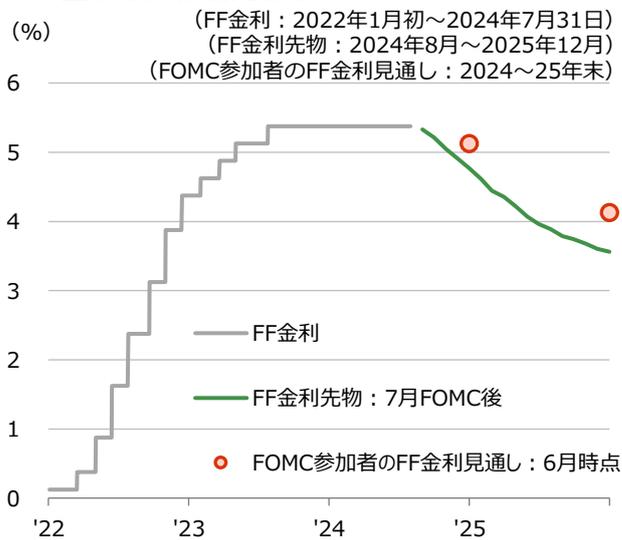
FF金利先物が9月利下げ開始を完全に織り込んでいた中、声明文は9月利下げ開始を示唆せず、金利は発表直後に一時的に上昇しました（その後、中東での地政学リスクの高まりを受けて金利が低下）。9月FOMC開催までに雇用統計並びに物価指標は2回発表されます。失業率の更なる悪化やデシインフレ傾向が確認されれば利下げに向かう一方、雇用環境の底堅さやインフレの粘り強さが見られれば利下げ開始が12月へと見送られる可能性もあります。目先は7月分の雇用・物価指標が注目されます。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。